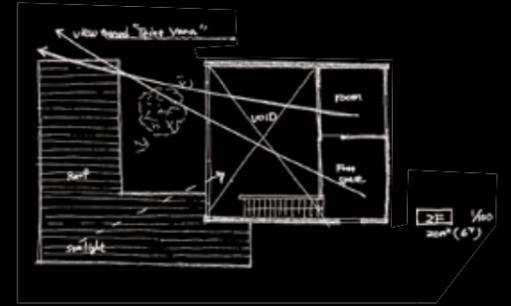
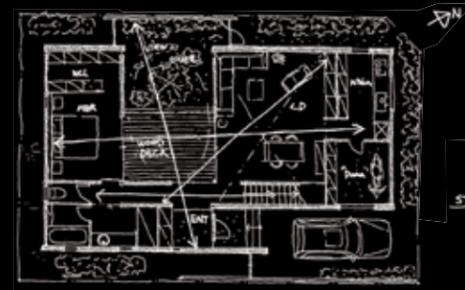


才気あふれる 若手建築家と創る家

Vol.3

※住宅雑誌「Replan」73号より抜粋。



通り抜ける視線が
空間に広がりを与えて

2層吹き抜けのリビングにそそぐ陽射しが気持ち良いSさん宅。建つのは、一般的な住宅地で北西が道路に面した角地。周囲には家々が建ち並び、特に南と西面は隣家が近接する。このような敷地条件のなか、建築家の鈴木理さんは、家の中にいる人が一番心地よくいられるよう、内部空間を充実させることを意識して設計したという。

通常は南側に庭などのスペースを空けることが多いが、ここでは隣家の背面が見えることもあり、あえて建物を配置。その代わりに中庭を設け、周りをコの字型に囲むように、南に寝室と水まわり、東にアプローチと玄関、北にパブリックなエリアのLDKを配した。西面は通りからの視線が気にならない高さの木のルーバーを設置し、開口を中庭側に集約した。玄関を入った途端に目前に中庭が広がり、リビングからは対角線上に中庭と玄関方向へ視線が抜ける。水まわり側からは玄関を挟んでリビングの階段までを見通せ、寝室からは中庭越しにリビングが見える。住宅内を視線が縦横無尽に通る抜け、空間に広がり生まれる仕掛けだ。しかも、心地よい自分たちのスペースだけが見えるのである。それ以外は、リビングの吹き抜けから南の陽とともに空や山並みの景観のみを取り込み、四季の移ろいを楽しむことができる。

充実した内部空間に包まれる安心感、そして視界がもたらす開放感。それらのバランスが絶妙で、住まう者だけが味わえる心地よさに満ちた家である。